

はじめに

この防災ハザードマップは、各種災害(洪水・土砂災害・ため池災害・地震・津波・高潮)に対する備えや対処方法等の災害時に役立つ情報をまとめた防災ガイドと、各種災害が発生した場合における危険箇所等をまとめた防災マップ(ハザードマップ)で構成されています。もしもの時に備え、この防災ハザードマップを活用して次の項目を確認し、普段から目につきやすい場所に保管しておきましょう。

- ・まず、ご自身が住んでいる場所に災害の危険があるか確認しましょう
- ・次に、自分たちが避難する場所を確認しましょう
- ・さらに、避難経路を実際に歩いて確認しましょう

地域の災害リスクを知っておこう!

自然災害はいつ、どんな災害が起こるかは分かりません。「こうすれば正解」というマニュアルでは対応できないことも。まず、どんな災害が起こり得るのか知り、どんな備えが必要なのかを考えてみましょう。

まさか土石流が来るとは思わなかった。
ここへ津波が襲ってくるとは。
今日地震が起こるとは思わなかった。
...ということのないように!



災害リスクへの備え

早めにやっておく事前の備え

調べておく

災害リスクを把握する

- ・ハザードマップで自宅や地域の災害リスクを調べておく。
- ・自治体のウェブサイトや市役所の窓口でも確認できます。

自宅だけでなく、学校、勤務先などの災害リスクも調べておこう



▼竹原市のサイトからも確認できます。

竹原市 ハザードマップ

検索

点検・整理しておく

家の周りを点検・整理する

- ・吹き飛ばされそうなもの(物干し竿やプランターなど)はないか。
- ・雨戸や雨どいは傷んでないか。
- ・排水溝のつまりはないかなど。



歩いて確認しておく

避難行動を想定する

- ・地図で最寄りの避難場所を確認。
- ・大雨で冠水しそうな場所、土砂災害のおそれがある箇所などをチェック。
- ・危険を回避するルートを確認。(最短距離にこだわらない)



自分なりの準備をしておく

自分の家や家族状況に合わせて必要な準備を整えておく

- ・非常用持ち出し袋の準備。
- ・土のうや止水板を用意。
- ・停電・断水対策用品の確認など。



災害警戒レベルととるべき避難行動

警戒レベル4は全員避難!

水害・土砂災害時に住民がとるべき避難行動が、その切迫度に応じて警戒レベル1~5に区分されています。市や気象台から出される警戒レベルと、自らの命を守るためにとるべき避難行動をしっかりとっておくこと、そして避難のタイミングを逃さないようにすることが重要です。

警戒レベル5段階表示

※警戒レベル1、2は、気象台から発表される防災気象情報(注意報等)です。

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	災害発生情報※ ¹ 災害が実際に発生していること ※ ¹ を把握した場合に、可能な範囲で発令 (市が発令)
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急)※ ² ※ ² 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令 (市が発令)
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 (市が発令)

次のような内容で市から避難行動を呼びかけます!

呼びかけ一例

♪ 緊急放送、緊急放送、警戒レベル4、避難開始。

こちらは、竹原市(災害対策本部)です。

〇〇地区に洪水に関する警戒レベル4、避難勧告を発令しました。

〇〇川が氾濫するおそれのある水位に到達しました。
〇〇地区の方は、速やかに避難を開始してください。

避難所への避難が危険な場合は、近くの安全な場所に避難するか、屋内の高い所に避難してください。

〇〇地域交流センター、〇〇小学校体育館を避難所として開設しています。

警戒レベルと求める行動を端的に伝えます

避難勧告の発令を伝えます

災害が切迫していることを伝えます

とるべき行動を伝えます

開設している避難所を伝えます

警戒レベル4

命を守るための自主避難

明るいうちに

夜間の避難は危険!

大雨や津波、高潮などのピークが夜間になることが予測される場合は、明るいうちに自主避難を。

大雨になる前に

大雨の中の避難は危険!

台風や集中豪雨が予想される場合は、道路の冠水などによる避難経路の遮断を想定し、早めの自主避難を。

高齢者等は早めに

迅速な避難が難しい!

避難に時間がかかるため、早めの行動が大切。近所に高齢者や配慮の必要な方がいたら、声をかけて避難に協力を。

避難するときは

- 近所で声を掛け合って避難する。
- 車はなるべく使わない。
- 道路が水で隠れてしまったところは歩かない。

避難時の服装

- ・ 頭部を護るもの
- ・ 目立つ色のレインコート
- ・ 運動靴
※長靴は水が入ると歩きにくくなる
- ・ 手袋

